

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町御蔵町
電話2-9772

隠岐の島町より

大人の『願い』

大人の子に対する「よい子への願い」には、主に三つに分かれるようです。一つ目は、周りと比べて「よい子」であること。二つ目は、大人に対して「よい子」であること。三つ目は、子自身が「よい子」であること。さて、この大人の三つの「願い」は、子の成長にどのように影響するのでしょうか。

▼①周りと比べて「よい子」であることを願う時、「みんなと同じでなければ」「誰が見てもよい子でないと」「そして「当たり前」のことができないと不安」という思いが強くなるようです。

すると大人の言動は、常に子を他者と比較し確認してない不安になり、叱ることや指示することをやめられないようになります。「よい子」であることは、そのように育てた「よい大人」でもあるという理論が成立し、できないことへの怒りや諦め

の気持ちが続いてきます。それが続くと結果的には自己肯定感の低い子になりがちです。やたら言い訳したり頻繁に嘘をついたり、萎縮や無表情になりやすくなるのもこの対応であるからとも言われています。

▼②大人に対して「よい子」であることを願う時、「いつも笑顔で明るい子でないと」「大人を癒してくれる存在でないと」「そして「言うことを聞かなくなると不安」という思いが強くなるよう

です。すると大人の言動は、叱るのが何となくこわくて叱れない、子が辛そうにしていない、子が辛そうにしていない、その原因を排除しようという気持ちになります。大人自身の不快な感情を、子の不安や不快な気持ちの原因を取り除くことで正当化し、子の言いなりになっていることに気づきません。

それが続くと、①と同様に自己肯定感の低い子になりがちです。自己中心的であったり、我慢ができなかったり好き嫌いが激しく精神的にもろくなるのはこの対応だからとも言われています。▼③子自身が「よい子」であることを願う時、「攻撃的な

映像や漫画は見せないように」「ゲームやSNSは三十分でやめさせる」「そして「理想的な環境になっていないと不安」と言う思いが強くなるようです。

すると大人の言動は、常に子の行動やその環境を管理し、大人がよいと思う環境を勝手に設定します。実際には、できることやできないことなど様々な矛盾が起き、大人の自己満足のための理想的環境を満たすことは困難となるのです。

それが続くと、①②と同じ結果に。完璧でないと精神的に不安定になったり、自分の考えに固執したりするなどの仲間関係作りや周囲の状況に非常に敏感な子になるよう

では、一体どうすればよいのでしょうか。何となく言えることは、この時期の子育ては、こんな子であってほしいという大人の勝手な理想を上手に諦めて、子自身が自分の良さや資質・能力をちゃんと理解することが大切であると。そして、他者と比べず、自らが考え選んだ道に責任を持って向かうことができるようにシフトさせていく過程なのかもしれません。

地域、家庭、学校：「子のために」という名目で、大人の「願い」を達成させようとする言動には、何か大事なことが抜け落ちていないように思えてなりません。
永島 好喜

放課後子ども教室の充実に向けて

本町では、放課後の子供の居場所づくり、および新入生の学校生活での《小一ギャップ》への対応、地域と学校の連携・協働活動の一環として「放課後子ども教室（以下、教室）」を実施し、安心・安全な遊び場を提供しています。現在、町内七小学校区にそれぞれ一つの教室があり、二百四十六名の子供たちが登録し、活動しています。本教室は、単なる預かりの場ではなく、自由遊びを保障するとともに、学習活動や体験活動、交流活動を行うための場と

考えています。また、活動する中で、子供同士や子供と大人の関係づくりを培う場とも考えています。地域の放課後サポーターの支えのもと、活動内容の充実に向けて、日々励んでいます。

今年度は、交流活動の充実に挑戦しています。まずは、他の教室同士が合同で活動する機会を増やしました。平日開催では、「貝殻集めと宝探し」や「ミニ縁日」などを企画しました。また、夏休みを利用し「海水浴」も行いました。参加した子供たちは、

初めはお互いに緊張している様子も見られましたが、最後には仲良く交わり笑顔で終えることができました。

次に、放課後児童クラブの子供たちと放課後子ども教室の子供たちが一緒に活動する機会を設けることにも挑戦しました。福祉課とも検討を重ね実現できました。大勢で思いっきり楽しむ子供たちが印象に残りました。更に本町が取り組んでいる立命館大学連携事業を活用し、大学生と子供たちが交流する機会も作りました。日常では接することのできない大學生を相手に大はしゃぎの子供たちでした。



交流活動は、子供たちの視野やつながりを広げるいいチャンスであり、子供たちの成長には欠かせないものです。今後とも、放課後子ども教室がそのような場になるようサポーターの皆様とともに支援して参ります。

林 明範

社会教育フェス2025「隠岐トワイ&エリブ」軌道修正 するために...

今年度も隠岐教育事務所管内社会教育士等研修会を行いました。今回は、社会教育フェス2025「隠岐と題して、社会教育鼎談ライブを行いました。鼎談者は、県の社会教育行政に関わってきた知夫村副村長の前田秀典氏と、学校籍の社会教育主事として県でも活躍された西郷小学校長の横田康氏、以前浜田で公民館主事をし、今は西ノ島町や県で社会教育委員をしながら、医療現場で社会教育を実践している藤井礼子氏です。三人には社会教育の成果や課題、魅力や今後について話していただきました。会場からも多くの質問が寄せられ、まさしくライブ。参加者は今までの自分を振り返り、今後につなげることができたようです。

私も、今後につながるキーワードをいただきました。事業も授業もトワイ&エリブで挑戦する。状況に応じて軌道修正。その修正をするために、日々の研修でアップデート。目的をもつて学び続けていくことが新しい未来を創る。そんなことを感じました。関係機関には、参加者の感想をお送りしております。ぜひご一読ください。

稲葉 泰範